

# HEART NET Vol.20

岩見沢市立総合病院 広報誌

2024年3月発行

ホームページ

<http://www.iwamizawa-hospital.jp>



TAKE FREE

ご自由にお持ち帰りください

## しあわせとゆっくと



岩見沢混声合唱団による  
クリスマス・ロビーコンサートの様子

[特集]小児科のご案内

[特集]看護助手(看護業務補助員)についてのご紹介

[レポート]地域医療連携室 退院支援

[クッキング]イベントメニュー／編集後記

# 小児科のご案内

岩見沢市立総合病院 副院長 佐藤 俊哉



2023年5月8日から新型コロナウイルス感染症は5類感染症となり、インフルエンザと同等の扱いになりました。2020年11月～2023年9月迄、病院横駐車場に設置した臨時の発熱外来で小児科を担当していた間は、クラフト(写真)をする余裕も全くなく、翻弄された時間を過ごしていました。10月からは、病院本館の小児科外来で診療を再開しています。元々小児は“発熱しやすい”、“感染しやすい”など発熱患者さまの数が多ことから、小児科では現在も午前中毎日「発熱外来」を行っています。コロナ禍において長い間発熱外来を担当して感じたことなどをお伝えします。

新型コロナウイルス感染症により、実施できる迅速検査が増えたことをご存知かと思います。喉鼻では、アデノウイルス・溶連菌・ヘルペスウイルス(水痘)・RSウイルス・ヒトメタニューモウイルス(健康保険適応は6歳未満)・インフルエンザウイルス・マイコプラズマ・ニューモニエ・百日せきの迅速検査があります。便では、ノロウイルス(健康保険適応は3歳未満)・ロタウイルス・アデノウイルスの迅速検査があります。

外来では、上記の迅速検査を行うことが多いです。現在、新型コロナウイルスは、PCR検査から迅速抗原検査に移行しています。また、新型コロナウイルスの迅速抗原検査キットは、薬局で購入できるためご家庭でも検査できるようになっています。それに加え、前回の冬からはインフルエンザとの二重抗原キットも販売されています。そのため当院では、PCR検査はほぼ実施していません。PCR検査は、判定までに1時間半時間を要すること(現在、検査結果を電話でお伝えすることはしていません)、一度陽性になると既に感染性はないのに、1～3ヶ月間ずっと遺伝子のみ陽性のままという少し面倒な結果を判定する必要があります。

その他、マルチプレックスPCR検査ができるようになりました。(肺炎疑いの採血・レントゲン撮影者のみが対象)これにより一度に22種類のウイルス検査ができるため利ではあります。ただ、ライノ・エンテロウイルスやパラインフルエンザウイルスが検出された場合は、特別なお薬はありません。しかし、年間を通してこの2つの

“カゼ”が小児の熱の原因としては最も多いです。保育園や幼稚園で「検査して来てください」と言われるようですが、全員がマルチプレックスPCR検査の対象者ではありません。検査の判定まで1時間半待ち、検出されたところで特別な薬はありません。それでも検査してほしいと言われるところが問題であると感じています。

新型コロナウイルスも消えず絶えず小流行しますので、まだ注意が必要です。感染症の種類で入院するわけではなく、喘息発作、熱性痙攣、肺炎、脱水・低血糖、中耳炎などの臓器の症状悪化に対して入院になります。精密検査とは熱の原因を探ることもありますが、まず臓器疾患が入院レベルにあるかどうかを調べることです。これを同時に行うことが重要なことです。ちなみに、マルチプレックスPCRには、上記の呼吸器セットの他に、胃腸炎セットと髄膜炎セットもあり、時折便利に治療を支えています。

最後に小児科外来のご案内ですが、小児科外来は午前の発熱外来以外に、午前・午後を通して紹介患者さま、救急車対応、夜間の救急対応、日曜日・GW・年末年始など小児科救急輪番も継続して診療しています。

また、午後の専門外来が充実しています。循環器、神経、腎臓、代謝・内分泌、発達、乳幼児検診(1ヶ月健診)、予防接種(シナジス、インフルエンザも)、子どもの心の相談外来・カウンセリングがあります。アレルギー外来はなくなりましたが、一般外来として診療しています。各専門の小児科医師や小児発達心理士による専門外来をはじめ、大学病院や子供総合医療・療育センターとの連携も切れ目なく行なっています。

基礎疾患のある小児が感染症にかかると、命の危険を伴う方もいらっしゃいますので、診察・検査は午後が発熱患者さまのいない時間帯でも別枠に行なっています。

循環器では先天性心疾患以外にも学校心電図検診後の精密検査を受けて30年以上になりますし、神経外来ではてんかんを中心に南空知から広く患者さまを受けています。腎臓外来を立ち上げて5年になります。大学での精密検査後の治療継続をしています。

代謝・内分泌専門では遺伝子検査も含み、糖尿病を中心に10年来多くの患者さまを診ています。発達と乳幼児健診ではRSウイルスワクチンのシナジス外来を含み、先天奇形を含む基礎疾患ありの患者さまも多く診ています。予防接種は週一回月曜日に感染症のいない時間帯で行なっています。インフルエンザ・ワクチンは金曜日午後に定期通院の患者さまに行います。

子どもの心の相談・発達障害・カウンセリング外来は、2人の小児科医(児童相談所嘱託医でもあります)と小児発達心理士で行なっています。2022年末には藤根美穂先生が独立して、子どもの心の相談・発達の専門クリニックを立ち上げました。発達障害や児童心理の問題を抱えたお子さんの専門ですので、ぜひ相談に行ってください。

感染症も専門外来もできる限りのことを岩見沢市立総合病院の小児科として続けていきます。これからもどうぞよろしくお願いたします。



今回は、看護部に所属している看護助手(看護業務補助員)について紹介します。現在、看護助手は約50名在籍しています。「地域の皆様にこころ寄り添う看護の実践」をモットーに、患者様が安心して治療・療養できるよう、看護師と力を合わせて働いています。

病棟・外来など多くの場所で活躍しており、幅広い年代の方が明るく元気に働いています。

業務内容について外来・病棟での一部を紹介します。

## 外来業務

## 病棟業務



業務内容は①窓口業務②電話対応③検体の提出④物品の補充⑤シーツ交換⑥廃棄物の処理などがあります。



業務内容は①清掃②配膳③ベッド清掃④患者搬送などがあります。

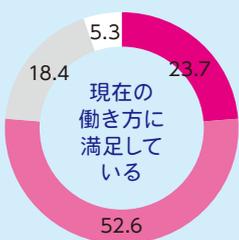
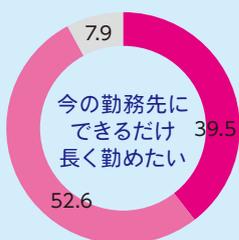
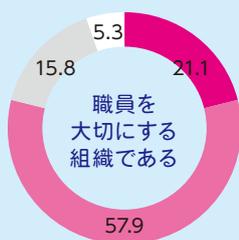
紹介したものは一部にすぎませんが、看護師と協力しながら、さまざまな業務を行なっています。患者さまの療養生活を支える看護助手はなくてはならない存在です。

現代の医療では、いくら優れた専門職がいたとしても、一人で「最善の医療」が完結するわけではありません。医師をはじめ、看護師、看護助手といった医療職全員が、手を取り合って初めて「患者さまにとっての最善の医療」が実現します。

看護部で調査したところ「今の勤務先にできるだけ長く勤めたい」と思う人が92.1%、「現在の働き方に満足している」と思う人は76.3%でした。看護部は今後も皆さんが働きやすい職場となるよう協力し合いながら、患者ケアを行っていきます。

## 看護助手は働きやすい??

今年行ったWLBインデックス調査の結果「職員を大切にしている組織である」と思う人は78.9%「今の勤務先にできるだけ長く勤めたい」と思う人が92.1%「現在の働き方に満足している」と思う人は76.3%と高くなっており、働きやすい環境となっています。



- そう思う
- ややそう思う
- あまりそう思わない
- そう思わない

一緒に働きませんか?  
詳しくはHPをご覧ください



# 補助員)についてのご紹介

看護部 教育委員会

看護助手が  
安全・安心して  
働けるための  
教育体制について



私たちが働いている看護現場では、看護助手と看護師の協働が築かれ、働きやすい職場環境が整備されるように取り組んでいます。

看護助手と看護師のコミュニケーションと協働がスムーズに行われるよう、お互いに情報を共有し、患者さまのケアや環境整備に取り組めるようにしています。

看護助手の知識やスキル向上の機会として、院内研修への参加、e-ラーニングを活用した自己学習ができるようになっていきます。

今年度は、「正しい手指衛生」について研修会を開催しました。e-ラーニングで事前課題を聴講し、研修会当日は講義と紙面上でのトレーニングを行いました。院内感染対策として、正しい手指衛生について学び、さらに日常業務の疑問について質問し、講師から回答を得られ、実践に活かせるものとなりました。

看護師は、看護助手との協働について学習し、部署内の良好なコミュニケーションのあり方や、情報共有の方法について話し合い、看護実践に活かせるようにしています。

地域医療連携室



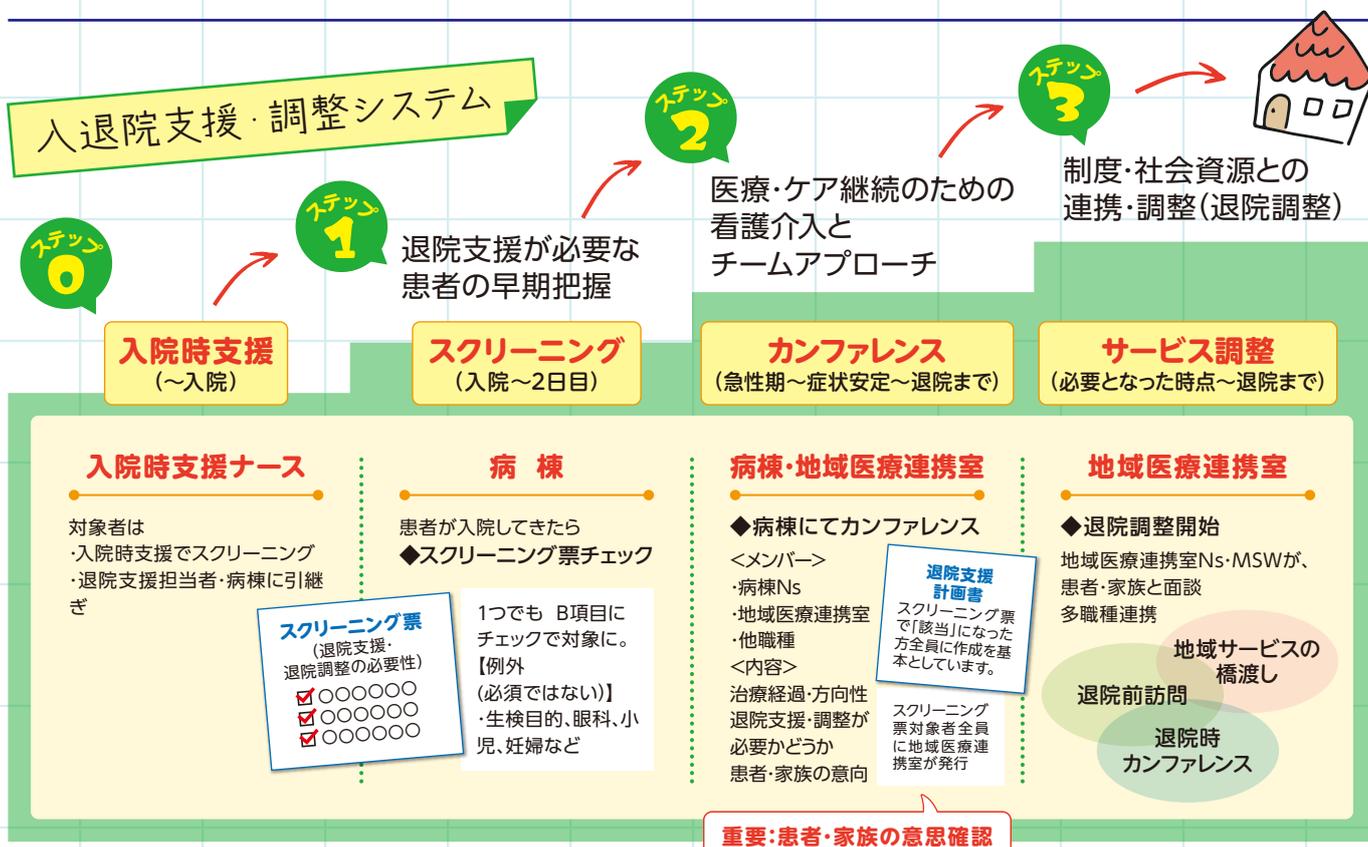
地域医療連携室は、患者さまが安心して医療を受けることができるよう地域の医療機関や施設等と協力・連携をおこなっています。また、退院後に地域で自立した療養生活を送ることができるように多職種でご支援させていただきます。退院支援・調整は、看護師・社会福祉士が担当しています。常に患者さまとご家族の意思を尊重することを大切にご支援させていただきます。

地域医療連携室は病院正面入口から入って右手にございます。ご相談、お困りごとなどございましたら、お気軽にお声がけください。

## 地域医療連携室の主な業務

- 1 ご紹介いただいた患者さまの外来診療予約、CT・MRI・RIなどの検査予約、セカンドオピニオン外来のご案内や予約、道内外の医療機関への診療予約
- 2 ご紹介いただいた患者さまの受診後の経過等を、紹介元医療機関へご報告
- 3 退院支援・調整システムに基づき、入院患者さまが療養場所を選択する支援や、療養場所との調整。(病棟ごとに退院支援・調整担当者を配置しています)

## 入退院支援・調整システム



## 退院支援スタッフ



長谷川 主任

6階東(消化器内科)病棟を担当しています。患者さまの人生の一部に関わり、お話しさせていただく中で新たな視点や考え方など、学ばせていただくことが沢山あります。また、その方を知る手がかりにもなっています。患者さま・ご家族さまが大切にされていること、心配されていることなどを院内外の方々と共有して、少しでも不安なく退院できるようお手伝いさせていただきます。病院から地域へバトンを繋ぐことで、切れ目のない支援が継続して提供され、安心して生活できると思っています。その為には、地域の関係各所とのつながりも重要で大切です。社会資源をご利用の方が入院された際の、関係者さまからのご連絡は大変有用で助かっております。今後とも連携のほど、よろしくお願い致します。



黒田 看護師

4階西病棟と5階東病棟を担当しています。入院された患者さまやご家族さまの中には、退院後の生活に不安を感じる方も少なくありません。

患者さまが「これまでどのように過ごされてきて、退院後はどのように過ごすことを望まれているのか」その希望に出来るだけ添えるよう、病院と地域の架け橋となり、患者さまが安心して地域で暮らせる支援を目指しています。

地域医療連携室では、退院後にご自宅で受けられるサポートの紹介や、ご自宅の退院が不安な場合には、リハビリ病棟の紹介もしておりますので、お気軽にご相談ください。



大和 看護師

6階西病棟を担当しています。通院が難しい患者さまや、ご自宅での看取りを希望される患者さまも多く、訪問診療や訪問看護などご自宅で受けられるサービスを紹介し、住み慣れたご自宅で安心して療養できるよう支援しています。退院後、どこでどのように過ごしたいかという希望に添い、患者さま・ご家族さまが選択出来るよう心がけています。

大谷 看護師

3階東病棟と新棟4階病棟、外科病棟と総合内科病棟を担当しております。

患者さま・ご家族さまが今までどのような生活を送ってきたのか、退院後はどのように生活していきたいのかを丁寧に教えていただける事を心がけて

おります。医療処置や障害、病気を抱えながらも、安心して希望する生活に近づけるように、院内・地域の方との多職種と連携する支援を目指しています。



谷川 看護師

4階東病棟は循環器内科と耳鼻咽喉科の患者さまが入院されています。社会的問題を抱えた方も多く、ソーシャルワーカーや市役所とも連携しています。希望に沿った療養先を調整出来るよう患者さま・ご家族さまと直接お話しし、病棟スタッフとも日々相談しながら調整を進めています。今後ともよろしくお願い致します。

桜本 社会福祉士

5階西病棟を担当しています。私は医療ソーシャルワーカーとして患者さま、ご家族さまの入院生活あるいは入院生活後の思いや悩みについて聞き、その人らしい生活ができるように支援していきます。また、病院スタッフ、地域機関と協働し、より良い退院支援になるよう日々努力しています。





今回の行事食のポイント

バターとコンソメで炊いたライスに南瓜を乗せて、ひき肉入りのホワイトソースをかけ、チーズでこんがり焼き上げました。デザートはひとつずつお化けのイラストを描き、病院食でありながらハロウィンを楽しんでもらえるよう工夫しました。

ご自宅でハロウィンパーティーをする際は、南瓜の中身をくり抜いて、具材を入れるとイベント感が一層増しますね。坊ちゃん南瓜がオススメです!ぜひ、試してください♪

ハロウィンは、アメリカや日本を始め世界各国で親しまれているイベントの一つです。日本では装飾を行ったり、仮装やコスプレをしたりして楽しむ、秋の風物詩として定着しつつありますね!

1人分の栄養量

- エネルギー 770kcal
- 塩分 2.7g
- たんぱく質 23.8g(12.6%)
- 脂質 21.7g(25.7%)
- 炭水化物 117g(61.7%)

- 1日の摂取カロリーの目安:成人男性/2000~2400kcal・女性/1400~2000kcal
- 1日の塩分摂取目標量:成人男性/7.5g未満・女性/6.5g未満
- 三大栄養素適切範囲:たんぱく質/12~15%・脂質/20~25%・炭水化物/60~68%

はあとねっとVol.20をお届けします。



2024年を迎えました。真冬の寒さと降り続く雪に悪戦苦闘する日々です。皆さまいかがお過ごしでしょうか? 年末・年始と数年ぶりに忘年会や新年会が催された職場も多かったと思います。病院でもクリスマス・ロビーコンサートや忘年会を開催できました。仲間と楽しい時間を共有できることの嬉しさを身に染みて感じる今日この頃です。院内での感染対策を継続していきながら、地域の皆さまと交流できる機会を検討しています。

今後も「はあとねっと」を通じて、地域の皆さまに新しい取り組みや診療に関する情報をお届けしていききたいと思います。

サービス向上委員会